

取材日：令和3年6月28日

熱中症対策 事例集

業種：建設業（左官工事業）

本社所在地：神奈川県川崎市

取材地：同上

従業員数：100～299名

概要：左官工事業（総合建設工事請負、左官工事請負等）

特に配慮している事項

神奈川県下トップの左官技術を持つ建設会社であることを自負し、注文住宅や公共施設の施工に対応してきました。熱中症対策予防策として、従業員の健康維持に注力し、企業としての社会的責任を果たしています。

基本的な取り組み事項

- 熱中症リスクの低減・回避の徹底。
 - 単独作業はリスクが高い為、特に高齢者や持病の有る作業者については二人一組で作業。
 - 熱中症が発生する作業現場では特に注意するよう指示・声掛け・準備。
 - 朝、10時・12時・14時に、管理者が職場巡視。
 - 声掛け指導や従業員の声を汲み取り、現場改善を実施。
- 普段から救急に備える。
 - 軽度の熱中症や、熱中症が疑われる症状が見受けられた場合、躊躇なく救急車を呼ぶ。

1. WBGT 値（暑さ指数）の活用

(1) WBGT 値の実測

- 作業現場ごと、朝礼時・昼礼時に測定している。

(2) WBGT 値に基づく評価等

- 炎天下のスラブ上などでは、蓄熱・輻射熱等で熱中症が発生するおそれがある。スラブ上で作業する場合には、特に注意するよう声掛けや指示をして準備を怠らないよう作業員に伝えている。

2. 熱中症予防対策

(1) 作業環境管理

① WBGT 値の低減等

- 休憩場所にミストシャワーを設置している。

②休憩場所の整備等

- 休憩場所を設けるスペースがない作業現場では、近隣のマンションや店舗などの一室を借り、休憩場所として使用する。
- WBGT 値の測定や掲示は元請が行うが、それを見て可能な範囲で熱中症対策を実施している。

(2) 作業管理

①作業時間の短縮等

- 現場の状況に応じて、現場責任者の判断で昼休憩を延長する（11：30～13：30）、休憩の頻度を増やす、夕方涼しくなってから仕事をするよう暑い昼間を休みにして終業時間を遅くするなどの対応をしている。元請から要請された仕事とのバランスが難しいが、元請との交渉の上で作業時間の調整を行っている。

②暑熱順化

- 日頃から運動を習慣づけるよう指示している。

③水分及び塩分の摂取

- 休憩場所に製氷機を常設し、塩飴を常備している。

④服装等

- 最近のファン付き作業服は半袖タイプもあり、作業性も悪くなく、ある程度の効果が期待できると実感している。作業員自ら好んでファン付き作業服を着用している状況にある。自社職員には全員に配り、下請事業者に対しては安価で購入できるよう仲介を行っている。
- ヘルメットの背中側に装着する日よけ用の布を装備させている。

⑤作業中の巡視

- 朝と10時、12時、14時に管理者が職場巡視する。その際に、声掛け指導、従業員の声を汲み取り、現場改善を行っている。疾患（持病）のある人、外国人（中国、ベトナム、インドネシア）、高齢者、新規入所者には特に注意している。
- 単独作業はリスクが高いため、特に高齢者や持病の有る作業員については必ず二人一組で作業するようにしている。

(3) 健康管理

①健康診断結果に基づく対応等

- 健康診断結果における持病の有無によって配置を考慮している。（高齢者、新規入所者についても同様）
- 健康診断結果による配慮について、職長に連絡している。特に該当者については巡視の際などに『体調はどうか？』『食生活はどうか？』『酒を飲みすぎないように！』などの声掛けを実施している。

(4) 労働衛生教育

- 毎年安全大会と日ごろのミーティング等で、熱中症リスクの低減・回避に関する教育を行っている。

(5) 救急処置

- 休憩場所で休憩すれば回復すると思われる程度であっても、昨今は救急車を呼んでも受入先がないことがあるので、手遅れにならないよう躊躇なく救急車を呼ぶようにしている。
- “こむら返り”や“手足のしびれ”など軽度の熱中症や熱中症が疑われる症状が見受けられた場合、その時点で救急車を呼ぶこととしている。